

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第68号

●2025年度

「地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る」の活動テーマをもとにスタート

2025年度、活動7年目に入った。本会の活動基調は、「さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る」「会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす」「既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切に、つねに市民生活に密着した活動をめざす」の3つを掲げて取り組んできた。

2025年度の活動に当たっての「着眼項目」は、

- (1) これまで公表されてきた、県内外の「地域実践活動事例」をもとに、“ご近所福祉”を検証しつつ、この6年間の「ご近所福祉の地域課題」を整理し、これからの地域づくりについて議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。
- (2) 「地縁組織と志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
- (3) 会員はじめ、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」,「地域総合型学習」の醸成に努める。
- (4) 「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
- (5) 「若者発 ご近所福祉かるた」を地域福祉教育教材として、ご近所福祉の推進に、更なる活用方法の開拓に努める。

●具体的な活動内容

(1) 会議等

- ① 定例研究会の開催
 - (a) 原則、毎月第2土曜日、18:30~21:00を定例開催日とする。
 - (b) 各種活動の状況に応じて、臨時研究会をもって、円滑な運営に努める。
- ② 事業関連部会設置と開催
 - (a) これまでの6年間の活動の取り組みから、「調査研究部会」、「広報部会」、「研修部会」を必要に応じて設置。
 - (b) 本会活動の活性化と円滑な展開のため、事業別部会を設置して運営する。

(2) 調査研究事業

- ① 「ご近所福祉」を検証する

「1年目活動：地域ぐるみの居場所検証」「2年目活動：ご近所福祉 その意識と実態調査検証」「3年目活動：児童の福祉意識検証」「4年目活動：高齢者福祉意識検証」「5年目活動：中学生ご近所意識検証」の5年間のあらゆる角度の取り組みから「ご近所福祉」を前年度検証した。今年度は、困りごとを解決する支援方法や地域資源を研究協議する。
- ② 「若者発 ご近所福祉かるた」の更なる活用事例を収集する

協働団体:静岡福祉文化を考える会が、企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」をこれまで10年間提供した県内の福祉施設・グループ・団体、地域実践者に「活用状況」を問い合わせた結果をもとに、各領域における活用状況をまとめた「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を更に、多くの活用事例に発展できるように、活用事例を収集する。

(3) 研修事業

- ① 県内外の各地区の地域実践活動事例をもとに、“ご近所福祉”を検証し、身近な地域のあり方を議論する。
- ② 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法を考える

平成27年度、令和3年度及び令和6年度に、協働団体:静岡福祉文化を考える会が企画・制作(合計300セット)した「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法をこれまで作成した「若者発ご近所福祉かるた利用の手引き」及び「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」をもとに定例会等を中心に研究協議をする。

③現場実践の機会を持つ

「若者発 ご近所福祉かるた」の活用による「近助」のあり方を、学校教育領域をはじめ、コミュニティ組織、志縁組織、施設等において学び合う機会を働きかける。

④「会員レポート」の取り組み

定例研究会において、それぞれ会員が日ごろ考えていること、思っていることを「テーマ」に語り合い、その後、意見交換の場をつくる。

(4) 広報事業

- ①「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクにより、広く活動を通じた問題提起を発信。
- ②焼津福祉文化共創研究会通信の発行(原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷 100部) 主には、メール発信に努めるとともに紙媒体で補う。

◆「本会通信」配布・送信先

PCメール送信先	配布及び郵送
1. 静岡県行政各課 (地域福祉課/静岡県民児協/関連部署地域振興課)	1. 会員(6)
2. 焼津市行政各課 (地域福祉課・市民協働課・広報課・地域包括ケア推進課)	2. 焼津市ボランティア連絡協議会加盟団体(17)
3. 静岡県・焼津市各社会福祉協議会	3. 静岡福祉文化を考える会役員(18)
4. 静岡県コミュニティづくり推進協議会	4. 港地域づくり推進会
5. 公益財団法人さわやか福祉財団	5. 港第14自治会(17)
6. 公益財団法人愛恵福祉支援財団	6. 港第23自治会(19)
7. 公益財団法人あしたの日本を創る協会	7. 小川小学校
8. ふじのくに未来財団	8. 小川中学校
9. 静岡福祉文化を考える会役員	9. 港小学校
10. 管内福祉施設連絡会(13介護事業所)	10. 港中学校
11. 管内外活動グループ・個人(10)	11. 県立焼津青少年の家
12. 管内中学校(2)	12. 小川地区コミュニティ推進会
13. マスコミ各社	13. さわやかクラブ連合会やいづ
14. 県内NPO法人(2)	14. 小川地域交流センター
15. 港地域づくり推進会(港第14自治会長)	
	計 90枚

③マスコミへの積極的な情報提供

(5) 関係機関・団体との連携

- ① 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
- ② 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有、地方発福祉文化実践活動の発信
- ③ 関係機関・団体、管内学校教育(小・中各2校)・社会教育領域への情報提供
- ④ 焼津市V連絡協議会との連携
- ⑤ ふじのくに未来財団への情報提供
- ⑥ 静岡県コミュニティづくり推進協議会(コミュニティ活動集団助成団体として)への情報提供
- ⑦ 港地域づくり推進会、港地域交流センター、小川地域交流センター、小川地区コミュニティ推進会及び管内自治会(町内会)への情報提供
- ⑧ 焼津市民生委員児童委員協議会への情報提供
- ⑨ 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
- ⑩ 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
- ⑪ その他、必要に応じて関係機関・団体に情報提供



近所の大切さ かるたで学ぶ



福祉文化を考える会

かるたは、大学生が高齢者を訪問する研修の中で得た学びを読み札に反映させた教材、A4判40枚の事例集には、「会釈して通り過ぎれば 顔なじみ」暮らし時 帰る子どもに一声を といた読み札、絵札各46枚の解説を掲載した。家庭をはじめ、多世代が集う居場所、放課後児童クラブなどで実践されてきた遊び方や、かるたをきっかけに、

支え合い再認識事例紹介

静岡福祉文化を考える会(平田代表)が隣近所で支え合う大切さを再認識してもらおうと、「若者発」ご近所福祉かるたの活用事例集を作成した。2015年度に同会が製作したかるたを基盤とする学校や地域グループなどから寄せられた取り組み事例を紹介している。

ご近所福祉再構築への関心が多く寄せられている

本会は、2024年度の主な活動として、協働団体「静岡福祉文化を考える会」が、赤い羽根共同募金助成事業により取り組んだ「若者発ご近所福祉かるた」の増刷・配布提供と、この10年間かるたを活用した団体・施設等の活用調査結果をもとに「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」の制作に協働で取り組んだ。その内容が、4月2日の静岡新聞に掲載された。

記事掲載当日から、現在までに70件もの問い合わせがある。

県内各地はもちろんのこと、埼玉県・熊本県・神奈川県等県外の自治会役員や民生委員、居場所運営関係者等幅広い領域から、「かるた」の購入、「かるた活用事例集」の提供希望が多く寄せられている。こうした問い合わせから、地域社会の希薄化や、ご近所同士のコミュニケーションをいかに維持していくか、「ご近所福祉の再構築の必要性」等今日的な課題が浮き彫りになっている。

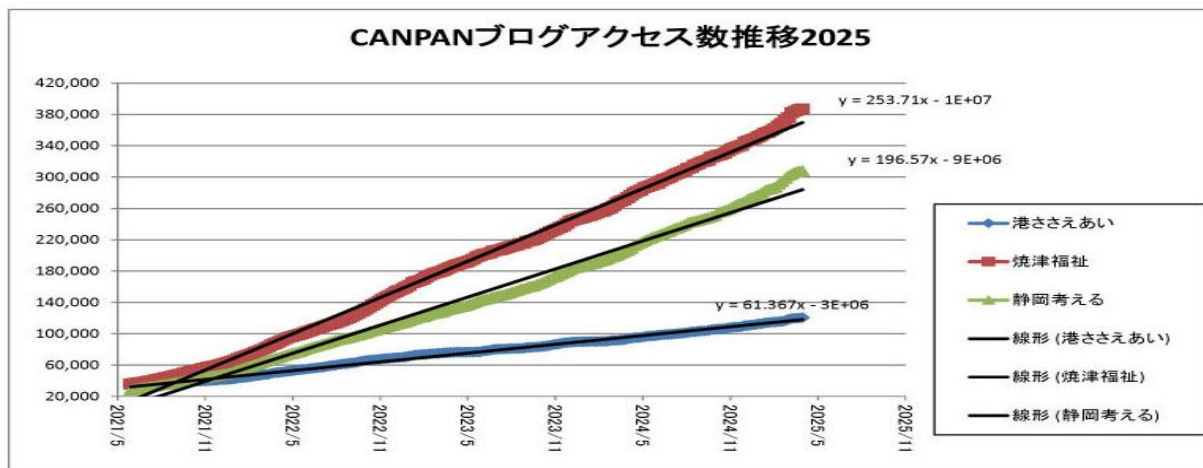
西部地域にお住いの91歳の方からは、高齢者の集まりに出かけても、いつも愚痴ばかり。かるたで、これからの地域を学びたいと語られていた。

突然、「FM やいづ」から、「ご近所福祉」を取り上げていただけると連絡があり応じた。



本会活動の情報発信 “ブログ”アクセス件数が最近多くなっている

本会の活動状況(定例会議事録・研究会通信・各種資料等)は、日常的にブログにアップし、活動の「見える化」「わかる化」に努めている。下記の表は4月7日現在のものである。4月に入り、1日4,000件のアクセス件数もあり、身近な地域活動への関心高まりは、こうした統計からも伺える。





シリーズ⑫ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「に」「ぬ」「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



穏やかで、笑顔のあふれるつながりが、良い人間関係が継続されます。「さりげない付き合い」で、より良い人間関係を創りましょう。



「集まるサロン」は、自発的に自由に、対等でそして本音で語り合えて、いつも笑顔がいっぱいです。「集めるから集まるサロン」こそ、「真の地域ぐるみの居場所」です。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(3/01~4/16)

- 3/01 令和7年度活動計画検討 研究会通信第67号配布・メール送信作業
- 3/08 第4回焼津市V連代表者会出席(令和6年度活動実施報告書提出)
*本会通信第67号を配布し、2024年度の活動報告と「かるた」活用呼掛け
- 3/27 3月(第72回)定例研究会開催
- 3/27 焼津市社協に、「個人用V保険」加入手続き
- 3/28 3月(第72回)定例会議事録作成(ブログへアップ依頼)
- 4/02 考える会「かるた活用事例集」関連記事が掲載
- 4/06 考える会「かるた活用事例集」関連記事反響大きいことを新聞社記者に伝える
- 4/08 4月定例会開催日程調整の結果、4月26日(土曜日)18:30開催で連絡
- 4/10 事務局調整協議(規約改正、通帳管理、研究会通信第67号増刷50部)
- 4/14 考える会「かるた活用事例集」問い合わせ対応
(連絡先確認の方に、順次手紙で状況説明、研究会通信同封)
- 4/15 本日現在「かるた活用事例集」関連記事問い合わせ件数 70件
- 4/16 「焼津福祉文化共創研究会通信第68号」作成作業
- 4/19 令和7年度 焼津市V連絡協議会総会及び第1回焼津市V連・代表者会出席
- 4/22 「焼津福祉文化共創研究会通信第68号配布・メール送信作業
- 4/26 4月(第73回)定例研究会開催

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくろうと、令和元年度に結成し7年目の活動に入った。身近な地域のことを一緒に語りませんか。

本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記にお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚

Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547

E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創
研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を
考える会QRコード